

船舶事故調査報告書

平成22年10月14日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）

委員 山本 哲也

委員 根本 美奈

事故種類	火災
発生日時	平成21年9月17日 04時00分ごろ
発生場所	鹿児島県奄美大島西部の焼内湾内 瀬戸内町曾津高埼灯台から真方位050° 3.0海里付近 (概位 北緯28° 17.2′ 東経129° 10.9′)
事故調査の経過	平成21年9月24日、本事故の調査を担当する主管調査官（那覇事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等 乗組員等に関する情報	漁船 ^{かいせい} 海生丸、1.7トン KG3-35348（漁船登録番号）、個人所有 6.80m (Lr) × 2.19m × 0.90m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数25、平成6年7月21日 船長 男性 69歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和54年10月12日 免許証交付日 平成21年9月28日 (平成24年10月20日まで有効)
死傷者等	なし
損傷	全損（沈没）
事故の経過	本船は、船長1人が乗り組み、シイラ漁の目的で、焼内湾内の餌場で錨泊し、船長が生き餌をとったのち、早朝の操業のために救命胴衣を着用したまま仮眠していたところ、平成21年9月17日04時00分ごろ、船長が機関室からの出火に気付いた。 船長は、機関室にある軽油タンクの燃料油が火災で爆発すると思い、急いで家族に携帯電話で火災が発生したことを連絡したのち、海に飛び込みアンカーブイにしがみついていたところ、家族の連絡を受けて救援に駆けつけた僚船に救助された。また、家族が漁業協同組合経由で海上保安庁に火災を通報した。 本船は、炎上したまま漂流していたが、05時30分ごろ沈没した。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北東、風力 1、視界 良好、気温 23℃ 海象：うねり 2m
その他の事項	本船は、進水後、約15年が経過していたが、電気系統の絶縁抵抗計測を行ったことがなかった。 本船は、機関室入口の右舷側に、新造当初からのステンレス製配電盤を備えており、電気コードがステンレス製板の孔を通して配線されていた。

	<p>本船は、平成18年ごろ、修理業者から、ステンレス製板は船体の振動等で被覆が擦り切れる可能性があるのでアクリル製板に替えた方がいいと言われていたが、替えずにそのままにしていた。</p> <p>燃料油は、船尾両舷のタンクに軽油約60ℓずつの合計約120ℓが積まれていた。</p> <p>船長は、日ごろから、ウェスなどの可燃物を機関室に置いていなかった。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>不明</p> <p>不明</p> <p>なし</p> <p>本船は、焼内湾内において錨泊中、機関室内から出火したものと考えられる。</p> <p>本船は、機関室に備えたステンレス製配電盤の配線被覆が擦り切れて短絡し、被覆に延焼して出火した可能性があると考えられるが、本船が沈没していることから、出火の状況を明らかにすることができなかった。</p> <p>船長は、火災に気付き、機関室にある燃料油タンクの軽油が、火災によって爆発すると思い、海に飛び込んだものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が焼内湾内において錨泊中、機関室から出火したことにより発生したものと考えられる。</p>	